

たばたけ新聞

2020.9.25
新米号

◆収穫に感謝!! 課題残った2020◆

今年記録的な暖冬に加えて、各地での豪雨災害、そして猛暑。自然と向き合っている農家であるがゆえに、これまでとは天候の違いが明らかに大きくなっていると感じざるを得ません。そして誰も予想だにしない新たな新型コロナウイルス感染症の世界的流行。全世界の人々が翻弄された半年間。そして未だ先を見通せない現状。これまでと変わらない季節の移り変わりが、逆の日常を取り戻すの難しさを強く実感させてくれます。



分たされた心配が、花を育てることに熱心な稲刈り作業の様子を捉えています。

「イメージ通りに事が運ぶ旅行はない。これは最近、頭に残った言葉の一つで、作家沢木耕太郎さんによるものですが、これを「イメージ通りに事が運ぶ農業はない。」と言い換えることも可能なのではないでしょうか? 「如何にして田んぼに雑草を生やさないか」これは私の20数年間の有機稲作農家キャリアで最も大きなテーマです。それが今年、これまでになく草の生えない田んぼ作りに成功。(もちろん除草剤は撒かず) 雑草対策に限って言えば、当初描いてい



50cm程のチェーンを何本もつけた除草機を押して歩きます。歩いた後は0.5~2cm程の雑草が吹き飛ばされます。

「除草剤を使わず、そして

てなんと除草作業をしなくとも雑草が生えない米作り」私も以前はありえないと考えていました。それでも試してみるのは十分あると考えを改め、自分でもそこに近づけるようにと試行錯誤してきました。

米作りシーズンのスタートの際は草が生えない田んぼをイメージし、そこに向かつて田んぼ作りをしていきます。年を重ねるごとにイメージに近づいてきました。ついに一部の田んぼでイメージどおり、あるいはそれ以上の結果を出せました。田植え当初から一ヵ月、田んぼの水は茶色く濁ったまま。田んぼ表面の土はトロトロなめらかで、まるでクリームのような。こうした田んぼができればしめたもの。ここ数年除草対策に手ごたえを感じながらの今年の結果に、これまで諦めることなく続けてきた努力が報われた気持ちです。この経験から何事も無理と諦めずやり続ける事の大切さ、そして道が開けることを実感しています。

実はここまでの文章は稲刈り前の8月中旬に書いていたものです。そして現在は稲刈りが始まった9月中旬。この



田植え後一週間ほどでこのたくましい姿。空の青が田んぼに映りうつく。

間、刈り直前に豪雨に遭い、倒伏は完全にヒカリが刈り取れない状態です。刈り作業が困難になります。コンバインの刈り刃を地面すれすれに落として低速作業。唯一救われたのが雑草が少なかったこと。もしこの状況で雑草が生い茂っていたら、作業は相当困難を極めたことは明らかです。

雑草対策はイメージ以上の結果が出せた一方、イメージ通りにいかなかったことも出現しました。それは二カメイチュウという害虫です。この辺りでは「ワラ虫」と呼ばれている蛾の幼虫ですが、稲わらの中に侵入し、稲穂を枯らしてしまおうという恐るべきヤツです。今年は近年になくその被害が大きくなくなってしまい、収量も激減となりそうです。

今年、四男が誕生した2007年より始めたなばたけ農場の収穫祭。13年後の今年、四男は中学一年となりました。我ながらよく続いたものだと思えます。生産者と消費者との絆を深めたい、という思いから始めた収穫祭。当初はどのような思いでおもてなしをすれば良いのか分からずバタバタしていました。(今でも変わらないですね) これまで続ける事ができたのも、偏に多くの方からの協力のおかげと感謝しております。始まった当初数年間は大阪から応援に駆けつけ、手打ち蕎麦を振舞ってくれた安喰さん家族。現在は綾部市で蕎麦店を営む様になりまし

今年も可能であれば14回目の開催をしたいと考えてきましたが、状況を考慮すると開催は困難と判断しました。楽しみにして下さった皆様には大変申し訳なく思います。次回までは充電期間として、さらに楽しんでいただけるようなアイデアを練っていきます。パワーアップした収穫祭でお会いできる事を楽しみにしております。(宗)

庭の花を摘んで来てくれた。空気が澄み渡る。花の香りが鼻を刺す。庭の花を摘んで来てくれた。空気が澄み渡る。花の香りが鼻を刺す。庭の花を摘んで来てくれた。空気が澄み渡る。花の香りが鼻を刺す。

場が穫れた食材を使った斬新な料理で収穫祭を華やかにしてもいい。稲葉さん夫妻には屋敷内の木にロープをかけ、子供達が木登りや楽しめるようにしてもらいました。そして何より、大したおもてなしではないにも関わらず足を運んでいただいた方々。スタッフさんからお手伝いをいただく事もあり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。



現代版!!ミレーの『落穂ひろい!!』

のかがが力ギになる畑へと変えていきます。真逆なことを短期間で一気に切り替えていきます。排水がもたない上、麦もさらに良く育つ

☆小麦の品種 かわります☆

稲刈りを終えたばかりの田んぼですが、実はもう次の段取りに入っています。それは小麦と大麦の種まきの準備です。一人のお産を終えたのに、休むまもなく次の赤ちゃんを迎える子宮のようとも言えます。

なばたけの田んぼは時には麦や大豆の畑になります。水を貯めるために作られている田んぼから、いかに「排水性」をあげるのか!がが力ギになる畑へと変えていきます。真逆なことを短期間で一気に切り替えていきます。排水がもたない上、麦もさらに良く育つ



麦刈り中、わっさわっさ出現。オトノサマ達!!



刈り取り前日、すっかり重くなった麦穂が揺れるの新しい顔のゆきちから。

お待ちくださいませ。新しい粉で、ゴタルトを焼くのが楽しみです。(二)

のはわかっているのですが、今年はその点に力を注いで麦を育てていきたいと新しいことに挑戦しています!

またこれまで中力粉の「ふくこむぎ」、そして準強力粉として「こしちから」の二品種を栽培してきました。それぞれへの思い入れがあるのですが、栽培の都合上、両品種とも今春の収穫より新たな品種に変わりました。「ふくこむぎを『南部小麦』へ。こしちからが『ゆきちから』となります。それぞれこれまでの品種と同じ様に使っていただけです。小麦は半年ほど寝かします。安定するために半干ししていただきます。粉としてでき上がってくるまでもう少しお待ちくださいませ。新しい粉で、ゴタルトを焼くのが楽しみです。(二)



洗い道具を洗い、お水はねを避け、お楽しみください!!